

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4592200028		
法人名	社会福祉法人 高千穂天寿会		
事業所名	グループホーム 寿久の里		
所在地	西臼杵郡日之影町大字七折1850-1		
自己評価作成日	平成27年1月27日	評価結果市町村受理日	平成27年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanistrue&amp;jisyosyoCd=4592200028-00&amp;PrefCd=45&amp;Versign=0d=022">http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanistrue&amp;jisyosyoCd=4592200028-00&amp;PrefCd=45&amp;Versign=0d=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつも明るく元気な職員に刺激を受け、入居者の方々も笑顔が多い。笑顔になる材料が多い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の「笑顔」をやりがいにし、職員は業務に取り組んでいる。利用者が穏やかに明るく暮らすことを支援するためには、「職員相互のコミュニケーションを中心としたチームワークが一番」と、その意義を共有し、意思の疎通を図りながら、昨年よりも向上することを目標に、地域とともに日々研さんし合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会や毎日のミーティングにおいて、入居者一人ひとりの現在の支援方法など、「笑顔」につながる支援策を検討している。また、職員が「笑顔」でいられるように、チームワークも大事にしている。	地域に密着し、理念につながった業務にするため、話し合いを常に行い、前年度よりも、より高められた支援に努力を行っている。そのために、チームワークを大切にしている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(観音様・稲荷神社祭り)等に出掛けたり、地区の方々にボランティアできて頂き、お茶のみをしながら世間話等で楽しめる。	地域の行事に参加したり、ホームで地域住民とお茶会や健康体操を行い、また、住民の特技でもある踊り等の披露で楽しむ交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体策が定まらず、地域貢献には至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表の方が福祉経験者であり、また、在宅で義母を介護しておられた経験から、色々な意見がいただける。ミーティングで十分に話し合い、生かせる事は生かしている。	定期的にホームの現状報告や相談事を交え話し合いをしている。建設的な意見や提案が出され、避難経路の確立や利用者の外食支援等が行われているが、委員の人々が外部評価等に積極的に関わるまでには至っていない。	推進会議では、ホームの現状報告に留まらず、外部評価の取組や具体的な課題を話し合い、それぞれの立場から率直な意見をもらい、サービス向上に生かすことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に出席し、実情を報告し協力をいただいている。また、運営推進委員のメンバーに保健センターの所長が居られる為、パイプ役になっていただいている。	ホームは、運営推進会議、町主催の地域ケア会議等に積極的に参加しており、行政の提出書類の問題点などを相談し、関係を築く努力を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、全職員理解をしている。立位が出来ない入居者がベッドより降りる危険性が高かった為に、家族より承諾書をいただき4点柵にて対応していたが、検討の結果、現在では拘束を行っていない。	身体拘束の研修を行っている。職員は、身体拘束やスピーチロック、介護放棄について十分理解している。家族の同意を得て、やむを得ず行っていた柵の問題を、研修や話し合いを重ねることで改善する取組を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年までは管理者が研修に行っていたが、他職員にも研修に参加する機会を設け、他職員にも伝達し、共有している。また、ニュース等で報道された時には、ミーティングにて話題にし、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少ない為、わからない事等はインターネットで調べたり、職員間で話しながら情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、理解をいただいている。また、料金改正時には文書を送り、わからない点は問い合わせにてお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には居室へ行き、意見等を伺うようにしており、要望等が出た場合には、ミーティングにて共有を行う。また、意見等があった場合には、運営委員会でも報告を行っている。	利用者は日常生活の言葉や行動から、家族には来訪時に、希望や要望を聞いている。取組の結果を運営会議に報告したり、職員間で検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや全体会等では意見を出しやすいような雰囲気づくりを行っている。また、職員から出た意見等は、園長が来園された際に報告を行い、改善できる事は改善している。	全体会議やミーティングを行っている。ここではホームのスキルを高めるため、自由に意見を出し合っている。それらの課題は園長に報告し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は法人内で統一されており、勤務も希望休を入れ、働きやすい環境を整えている。また、マンネリ化防止や通勤の緩和、能力等から年に1回、法人内で異動が行われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や町で行われる研修に積極的に参加している。その他も職員一人ひとりにあった研修を選び、参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修や町主催の研修に参加している。また、グループホーム協議会主催の研修会にも参加し、全体会にて報告し、勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者と副担当者を配置し、一緒に作業をしたりする中で要望等を聞き出し、職員間で共有し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には居室へ行き、現況報告を行いながら要望等を伺っている。また、遠方の家族には電話で対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ他協力機関につなぐ対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や作業を一緒に行ったり、季節に応じ昔の風習を聞きながら一緒に作業したりし、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日曜日には遠方の家族に連絡したり、面会時には居室にてゆっくり過ごして頂いている。また、月に1回の通信と担当者からの手紙を送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室やドライブで自宅周辺に行き、近所の方と話をされたりしている。役場や農協など、昔よく行かれていた場所にも足を運び、車窓から眺められ喜ばれる。	行きつけの美容院やスーパーに出掛け、なじみの人との交流を行っている。また、主な活躍の場所であった役場、農協、自宅周辺をドライブすることで、関係が途切れないように支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良し悪しを見極め、食事の時に同じテーブルにならないように工夫をしている。レクリエーションの時にも孤立している人がいないよう職員が間に入り、援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町が小さい為、家族に遭遇する事がよくあります。現況を伺いながら、状況に応じて支援を行う事を説明済みである。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングにて少しの情報でも提供し、職員全員で共有している。少しでも情報が出てくるように、1対1になれる時間をつくるようにしている。	日々の暮らしを通して、利用者の希望や意向を把握することを最も大切にしている。把握した情報は全職員が共有している。また、家族や関係者からは、利用者の生活歴を聞き、ケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人から話を伺い、職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化等あった際には、ケア記録や伝達ノートに記載し、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がアセスメントをとり、ケアマネが本人と家族の要望等を聞いている。カンファレンス時に色々意見を出し合い、反映し、作成している。	利用者ごとの担当者が中心になり、利用者、家族の意向、ケア記録、日誌、カンファレンスを取り入れてケアプランを作成している。毎月モニタリングを行い、随時ケアプランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録を個別に記入し、1ヶ月毎にモニタリングを行い、見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診等には、遠方の家族や高齢の家族に変わって受診をするなど、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容院が送迎をさせていただいており、職員が対応する時と違う一面がみられており、次回の楽しみの一つになれるように美容室に協力をもらいながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの入居者が入居前のかかりつけ医である。入居前に遠方のかかりつけ医だった場合は、家族と話し合い、近隣の医師に変更していただいている。	遠方で受診が困難な場合は、本人、家族の承諾の下、協力医に変更している。家族が困難なときは職員が同行し、日頃の状況や変化を伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師がいない為、特変時には町立病院の看護師に入電し、指示を仰ぐ。また、処置の仕方は法人内の看護師に尋ねる事がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	頻繁に面会に行き、状態を確認し、看護師からも情報をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、同法人の特別養護老人ホームが受け皿となる事を入居時に家族に説明を行っている。また、どこまで支援が出来るかの見極めに関しては、その都度検討を行っている。	入居時に重度化した場合、「看取りをしない」ことを伝え、その理由を説明している。法人に特別養護老人ホームがあり、対応できるため、状況の変化に応じ、その時点でホームでできる範囲を話し合い、情報の共有と支援体制を確認しあっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実務経験が少なく発生時の経験が少ない職員が多い為、訓練が求められるが、経験のある職員が事例を提供し、イメージトレーニングを行っている。応急手当に関しても看護師から聞き、全員で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接する養護老人ホームとの連携にて、訓練を行う。1ヶ所の道路が遮断された場合も想定し、他の避難経路を確認。	火災・地震を想定し、隣接する養護老人ホームとの合同訓練を行っている。地元消防団、地域住民、隣接する施設との連携や避難経路を定めている。また、非常食や水を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で注意を仕合い、言葉かけには注意をはらっている。	一人ひとりの個性を大切にしながら、穏やかな表情で言葉かけを行うことを心がけている。人生の先輩であることを自覚し、自尊心を傷つけない言葉かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日入浴希望者にはその都度尋ね、10時の水分補給時にはメニューを見せ、選んでもらっている。また、月に1回おやつバイキングを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調の悪そうな入居者に関しては、横になってもらったり、テレビを観たい方には何を観たいか尋ねたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室に行ったり、一日のうちに何度も着替えられたりしてもそっと見守っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理をしたり、下ごしらえをしてもらったりしている。また、畑に野菜がある為、一緒に収穫を行い、料理しやすいように準備を行ったりしている。	法人の栄養士が献立を作成し、行事には利用者の希望を取り入れている。口腔機能に応じた食事形態や服薬にも考慮し、柔軟に対応している。身体機能に応じ、調理参加も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接の養護老人ホームの栄養士が献立をたてている。摂取状況も一覧にし、細かくチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、お茶にてうがいをを行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導の必要性がある方に関しては、職員が排泄パターンを共有している。誘導時には時間を記入し、チェックを行う。	排せつ記録からパターンを把握し、トイレ誘導や声掛けを行い、自立支援を行っている。7名の利用者は、日中、布パン又は布パンツとパットへ移行している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表をチェックし、内服にて調整を行っている。また、水分摂取や運動にも心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴希望の方には、その都度、希望をたずねる。また、入浴剤を入れたり、ゆず湯を行ったりし、楽しんでいただいている。	基本的には週3回の入浴日にしているが、利用者の希望や健康状態に応じ、柔軟に対応している。入浴できない場合、清拭や局部洗浄を行っている。また、入浴剤やゆず風呂などで入浴を楽しめる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝の離床時間は各自違う時間である。就寝時間も各自違っている。日中ソファで傾眠がみられる時には、希望者は居室で休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者が毎回、病院からの説明書をケース記録に綴じ、薬の変更があった際には理由を記入している。また、伝達ノートにも記載し、情報の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	みんなで作る料理では、その人にあった担当をもらったり、行事で昔の風習を交えながら一緒に作業を行ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠方の家族が帰省され、希望があれば外出・外泊していただいている。また、ドライブの際にはどこに行きたいか尋ねたりしている。	日常的には温かい日を選び、園庭を散歩している。年2回は利用者と家族が同じ弁当を持参し、希望の場所に外出している。立地条件から、希望範囲に限られるが、希望の実現のため、家族の協力を得ながら外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で所持したい方には家族了承の下持ってもらっているが、管理する事が困難な方がほとんどの為、おやつバイキング時にチケットを渡し、交換する方法をとっている。また、個人的な買い物時にはお金を渡し、払ってもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らかけられる事はないが、取り次ぎは行っている。また、年賀状を担当者と一緒に制作している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節の風物詩を飾ったり、入居者の作品展示を行っている。廊下にも作品を展示し、季節感のある空間づくりを工夫している。	共用空間は毎朝換気を行い、手すりやソファなどは塩素系消毒薬で拭いて衛生管理し、室内は温度・湿度を一定に保ち、健康管理にも配慮している。玄関や居間には季節の花を飾り、居心地良く暮らせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを増やし2か所に設置し、好きな場所に座れるように配置した。気の合う人同士でその時々を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団は自宅からの持ち込みであるが、自宅で使用していた物の持ち込みが実現せず、その人の好みに合わせて担当者が居室を居心地のいい空間になるように工夫している。	自宅で使い慣れた布団や枕を使用している。居室は利用者の好みに合わせ、担当者と話し合いながら、自分らしく、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下を常に明るくし、トイレ等には張り紙をして対応している。		